

Obituary of the Late Mr. Shinjun TAWADA

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Hatsushima, Sumihiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055912

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



○ 多和田眞淳氏を悼む(初島彦彦) Sumihiko HATUSIMA: Obituary of the Late Mr. Shinjun TAWADA.
沖縄植物研究の在琉三大功労者のうち、1982年に園原咲也氏を、1985年に天野鉄夫氏を失い、今度は最後の一人多和田眞淳氏を失ったことはまことに残念である。多和田氏は1907年那覇市に生れ、1926年沖縄県立師範学校を卒業後、現在まで約50年間琉球列島の植物を採集し、その採品は京大の小泉、大井、北村、田川、外山の諸先生、台北大学の正宗氏に送られ、その結果多くの新種、新記録の植物が発表された。筆者も氏が西表島におられたとき、網取のマングローブに案内していただき、そこで同氏発見のヒメハブカズラを採集し、それを新種 *Raphidophora liukuensis* HATUSIMA として発表したことがある。氏は1926年～1948年、沖縄、西表の小学校、中学校に勤務し、1948年琉球政府に勤務、その間林業試験場長(1953～1958年)、琉球政府文化財保護委員会主事となる。氏は植物のほか、考古学にも造詣が深く、琉球のその方面に関する多くの論文を発表している。氏を記念してつけられた学名に、*Eupatorium tawadae* KITAM., *Rubus tawadanus* KOIDZ., *Lasianthus tawadae* OHWI, *Lepidagathis tawadana* OHWI, *Strobilanthes tawadanus* OHWI, *Freycinetia tawadae* Y. KIMURA がある。著書に「沖縄菓草のききめ、1972年」がある。氏は昨年12月21日83才で亡くなられた。住所は那覇市崎山町1-83。

○ 島袋敬一 琉球列島維管束植物集覧 B5判, 794頁。平成2年11月20日、ひるぎ社(〒903 沖縄県那覇市首里石嶺町1-117)発行。9,000円。

著者は故原 寛博士の「日本種子植物集覧」に深く感銘し、北は吐噶喇列島より南は八重山諸島に到る琉球列島の植物において、既刊の著作に記された学名を考訂し、この地域の植物相研究に役立てたいということから、この出版を企画された。私はこの労に對し敬意を表する。しかし、著者は序文に“かなりの部分が孫引きに終わっていることを告白しなければならない”と書いて居られるように、出典を明らかにするならば、引用文献中に本誌が落下するようなことはあるはずがない。

○ 伊藤浩司・日野間 彰・中井秀樹編 環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録II B5判, 288頁。平成2年6月30日、たくぎん総合研究所(〒060 札幌市中央区大通西3丁目6番地 道新ビル)発行。10,000円。

本書はIV(244頁。昭和62年3月20日発行)に続いて出版されたもので、環境問題が注目される今日、全国各地で各種の環境調査が行なわれているが、それらの報告書に使用されている植物名については必ずしも一致することがなく、共通の統一的な標準植物名表が必要である。この観点から、本書は同一植物とされている植物に対してつけられた学名や和名の異名を採録したもので、特に書名に“環境調査・アセスメントのために”とつけられている。私はIを見ていないが、既に刊行されているようで、残るIIIが完成するならば、著者等が考えて居られる北海道の高等植物についてのチェックリスト作成上の基礎資料ならびに分布資料として価値高いものであることは言うまでもない。

○ 浅野一男 浪合村の植物 B5判, 288頁。平成3年3月3日、浪合村教育委員会(長野県下伊那郡浪合村中下町)発行。非売品。

浪合村の標高は820～1907mで、標高差約1000mの間に、クリーコナラ林、モミツガ林、アカマツ林、ミズナラ林、ブナクマイザサ林、ウラジロモミ林、コメツガーシラベ林が垂直方向に、ほぼ層状に重なっていて、約950種の高等植物が自生している。本書では「浪合村の四季」と「図鑑部」の二部から構成されていて、約300種について伊知地国夫氏撮影のカラー写真を加えて解説している。浪合村では身近な植物に親しみ、植物を通して真の自然の豊かさや浪合村のすばらしさを学び、郷土愛を育てて行くことを切望し本書を刊行したと言う。

○ 岩井昭夫 大井川の植物 B6判, 190頁。平成3年3月25日、百水社(〒192 東京都八王子市明神町4-9-1-1104)発行。1,600円(本体1,553円)。

著者は大井川上流地域の調査に、昭和26,7年頃より40年間、月1回と単純に計算しても、すでに480回足を運んだと言う。また、その間に撮影したフィルムは5万コマに及ぶと言う。

本書はそのうちの88種、100枚近くが精選された由である。したがって、著者は引続いて第2集を刊行したいというお考えがあることをもらして居られる。
(里見信生)